

# 史料紹介 苓北町漁業協同組合所蔵中元家文書

荒武賢一朗

二〇一〇年の周縁プロジェクト天草フィールドワークでは、苓北町教育委員会の協力を得て、町内で保管されている江戸時代から明治時代にかけての古文書を調査した。いずれも苓北町や天草の歴史を伝える貴重な史料であるが、ここでは江戸時代に弁指という役職に就いていた中元家の文書から、寛政く文化年間（一七八九く一八一一年）の「諸御用扣」を紹介したい。

表題の通り、弁指の藤左衛門が代官所関係の仕事（御用）をする際の控書をまとめたものである。前半には、天草に数多く漂着する唐船に関わるもの、そしてオランダ船についてもその記録が残されている。後段には、漁業に関する争論についての文書や村方支配にかかる内容が含まれている。これらは当時の状況を理解するために重要な情報であり、関連史料を含めて今後も分析を深めていきたい。

## ◇苓北町漁協所蔵中元家文書 4

（表紙）「寛政十一歳

諸御用扣

己未七月写之

弁指 藤左衛門

第二号

書翰扣

挽船扣

目録

唐船扣

浦廻扣

阿蘭陀扣

書翰覚

一小船四拾五艘

但、老艘二付銀拾七匁三分八厘

此賃銀七百八拾式匁壹分

右者唐船漂着場々富岡湊江挽入申候一日分

一質唐人乗船老艘

此賃銀七匁五分

一加子七人

但、老人二付銀式匁宛

此賃銀拾四匁

一米五升式合五勺 石二付五拾匁替

但、老人二付米七合五勺

此銀式匁六分式厘五毛

右者質唐人式人、辰十一月十七日乗置申候一日分

ノ八百六匁式分厘五毛

一 小船五百六拾艘 但、一日壹艘ニ付銀十七匁三分八厘、辰十一月

十八日ノ同十二月朔日迄、日数十四日、一日

二 四拾艘宛、

此賃銀九貫七百三拾式匁八分

一 質唐人乗船十四艘 但、一日一艘ニ付銀七匁五分、辰十一月十八日

ノ同十二月朔日迄、日数十四日、一日ニ一艘

宛、

此賃銀百五匁

一 加子百四拾人 但、一日壹人ニ付銀式匁宛、日数十四日、一日

二十人宛、

此賃銀式百八拾匁

一 米壹石五升 但、一日壹人ニ付米七合五勺、加子、石ニ付五

拾匁替、

此銀五拾式匁五分

一 飛船壹艘 但、富岡町ノ崎津村迄往来二日、壹艘ニ付銀十

七匁三分八厘、

此賃銀三拾四匁七分六厘

右者唐船漂着ニ付、富岡町ノ崎津村江通事呼ニ遣候飛船、

一 同六艘 但、一日壹艘ニ付銀十七匁三分八厘、富岡ノ嶋

原迄往来二日、日数六日、一日ニ壹艘宛、

此賃銀百四匁式分八厘

右者唐船漂着ニ付、嶋原江御届申上候飛船壹艘并唐人米・薪・水・

野菜・荳腐相届候ニ付御届壹度、唐船挽立出帆御届壹度、都合三度

富岡ノ嶋原迄之飛船、

一 同壹艘

此賃銀十七匁三分八厘

右者富岡湊挽立、沖中ノ椀嶋湊江碇場案内ニ遣候飛船、

一 同壹艘

此賃銀十七匁三分八厘

右者椀嶋湊挽立、長崎嶋原御屋鋪江御注進之飛船、

一 同壹艘

此賃銀十七匁三分八厘

右者瀬戸口ノ御注進之飛船、

一 同壹艘

此賃銀十七匁三分八厘

右者瀬戸内ノ御注進之飛船、

ノ百七十三匁八分

一 野菜千五百式拾五斤 但、百斤ニ付銀六匁替、

此銀九拾壹匁五分

右者唐人野菜願出候ニ付書簡取之相渡申候、

一 豆腐百六拾九丁 但、壹丁ニ付銀壹分七厘、

此銀式拾八匁七分三厘

右同断、

一 薪八千五百斤 但、銀壹匁ニ付五十斤替、

此銀百七拾目

一 白米四石 但、石ニ付九十七匁替、

此銀三百八拾八匁

一 銀百八拾目 但、一日壹人ニ付銀六匁宛、

ノ八百五拾八匁式分五厘

右者質唐人式人、辰十一月十七日夕同十二月朔日迄之賄、

合テ銀拾貳貫八匁五分五厘五毛

右者来朝寧波乍浦出之唐船壹艘、辰十一月十七日天草郡富岡湊江漂着仕候二付、長崎江挽送り申候、諸色入用如斯ニ御座候、以上、

未正月

糧米六斗 但、二日分、

此代錢同三貫七百廿文、

但、壹升二付六拾貳文替、

富岡浦才領 治兵衛

同 和助

同町弁指 藤左衛門

崎津村通事

玉木七郎左衛門

寛政八年

辰十一月十七日漂着

嶋原屋市左衛門殿

糧米貳石四斗 但、二日分、

此代錢同拾四貫八百八十文、

但、壹升二付六十貳文替、

午九月

一挽船拾貳艘 但、壹艘二付拾人乗、船人共二十一人

此賃錢十三貫二百文 〆百三十二人

但、壹人二付百文、

右者石見守様御渡海被遊候節、灘中迄參申候、

一糧米貳石四斗 但、二日分、

此代錢丁錢拾四貫八百八拾文

但、壹升二付六拾貳文替、

一才領船三艘 但、壹艘二付十人乗、船人共二十一人

此賃錢九貫九百文 〆三拾三人

是者石見守様御歸帆被遊候節、郡中迄參候挽船才領仕候様被仰聞、

茂木村迄參申候、

同正月

一同拾艘 但、壹艘二付十人乗、

船人共二十一人

此賃錢三拾三貫文 〆百十人

是者岩原御役人様御歸帆之節、茂木村迄參申候、

糧米貳石 但、二日分、

此代錢丁十貳貫四百文、壹升二付六十貳かへ、

未四月

一挽船五艘 但、壹艘二付拾人乗、

此賃錢拾六貫五百文 船人共拾壹人

〆五拾五人

是者岩原御普請役下妻辰之丞様御歸帆被遊候節、茂木村迄參申候、

然ル処天氣あしく御座候而罷歸り候義相成不申、同村へ逗留仕候日

数三日、

糧米壹石五斗 但、三分分、

此代錢九貫三百文

但、壹升二付六拾貳文替、

賃錢合テ八拾五貫八百文

糧米合テ八石九斗

此代錢合テ丁五拾五貫百八拾文

二口ノ百四拾貫九百八拾文

十九文 七貫四百廿匁

唐船御用

辰十一月十七日来朝唐船壹艘、富岡湊江漂着ニ付被召使候船・加子・

飛脚・人足諸人用

辰十一月十七日

一小船貳艘

但、水主十人、

舟かこノ十貳人、

此賃銀壹匁壹分六厘

是者唐船漂着ニ付、遠見御番人御衆中・町御役人・弁指乗組、湊内

江挽入候哉尋可申乗出候処、挽入呉候様申候ニ付一日役如斯、

同十七日

一飛脚貳人

此賃銀八匁

是者右御用ニ付、崎津村迄通事元江御注進之御状持、

同日

一飛脚貳人

此賃銀八匁

是者右御用ニ付、崎津村・牛深村遠見御番人方江御注進之御状持、

同十七日

一番船四艘

但、壹艘ニ付加子四人、舟かこノ廿人、壹人ニ付

銀壹匁八分六厘、二日役、

此賃銀三拾七匁貳分

同日

一通船貳艘

右同断、

此賃銀拾八匁六分

同日

一津口番船壹艘

但、舟かこノ六人、二日役、

此賃銀拾壹匁壹分六厘

同十七日

一内使六人

但、壹人ニ付一日ニ銀壹匁八分六厘、

二日役、

此賃銀拾壹匁壹分六厘

是者六人之内三人者遠見御番人方其外諸役人旅宿江被召使候三人

分、

一人足式人

此賃銀八分

是者右御用ニ付入用之野菜調ニ遣ス、

一通船貳艘

但、水主四人・舟加子ノ五人、二日役、

此賃銀拾八匁六分

一番船四艘

但、水主廿人、舟共ニ二日役、

此賃銀三拾七匁貳分

同十八日

一津口番船壹艘 但、舟かこメ六人、二日役、

此賃銀拾壹匁六厘

同十八日

一内使六人

此賃銀拾壹匁六厘

右同断、

同日

一小船八艘

但、水主四拾人・舟加子メ四拾八人、

此賃銀貳拾貳匁三分貳厘

是者唐船水切候段願出候二付、御差図ヲ請水取候舟加子半日役、

同十九日

一番船四艘

但、水主四人・舟加子メ廿人、二日役、

此賃銀三拾七匁貳分

同日

一通船貳艘

但、水主四人・舟加子メ五人、二日役、

此賃銀八匁六分

一津口番船壹艘 但、船加子メ六人、二日役、

此賃銀拾壹匁六厘

同十九日

一内使六人

此賃銀拾壹匁六厘

右同断、

同廿日

一番船四艘

此賃銀三拾七匁貳分

同日

一通船貳艘

此賃銀十八匁六分

同日

一津口番舟壹艘

此賃銀拾壹匁六厘

同日

一内使六人

此賃銀拾壹匁六厘

右同断、

一小船壹艘

但、舟加子メ五人、

此賃銀四匁六分五厘

是者右御用二付薪積ニ上津深江村へ遣ス、

廿一日

一番船四艘

此賃銀三拾七匁貳分

同日

一通船貳艘

此賃銀八匁六分

同日

一津口番船壹艘

此賃銀十一匁六厘

同日

一内使六人

- 此賃銀十一匁壹分六厘  
右同断、  
同日  
一小船八艘 但、水主五人・舟加子メ十八人、  
此賃銀貳拾貳匁三分貳厘  
是ハ唐船水切候段願出候ニ付、御差図ヲ請水取候、半日役、  
廿二日  
一番船四艘  
此賃銀三拾七匁貳分  
同日  
一通船貳艘  
此賃銀十八匁六分  
同日  
一内使六人  
此賃銀十一匁壹分六厘  
一津口番壹艘  
此賃銀十一匁壹分六厘  
一内使六人  
此賃銀拾壹匁壹分六厘  
右同断、  
廿三日  
一番船四艘  
此賃銀三拾七匁貳分  
同日  
一通船貳艘  
此賃銀十八匁六分  
同日
- 一内使六人  
此賃銀拾壹匁壹分六厘  
右同断、  
廿四日  
一番船四艘  
此賃銀三拾七匁貳分  
同日  
一通船貳艘  
此賃銀十八匁貳分  
同日  
一津口番壹艘  
此賃銀十八匁六分  
同日  
一内使六人  
此賃銀拾壹匁壹分六厘  
右同断、  
同廿五日  
一番船四艘  
此賃銀三拾七匁貳分  
同廿五日  
一通船貳艘  
此賃銀拾八匁六分  
同日  
一津口番壹艘  
此賃銀十一匁壹分六厘  
同日

一内使六人

此賃銀十一匁壹分六厘

右同断、

同廿二日

一番船四艘

此賃銀三拾七匁式分

同日

一通船式艘

此賃銀拾八匁六分

一津口番壹艘

此賃銀拾壹匁壹分六厘

同廿五日

一内使六人

此賃銀十一匁壹分六厘

右同断、

同廿六日

一小船八艘

此賃銀式拾式匁三分式厘

是者唐船水切候段願出候二付、御差図ヲ請水取候半日役ニ相立、

同廿七日

一番船四艘

此賃銀三拾七匁式分

同日

一通船式艘

此賃銀拾八匁六分

同日

一津口番壹艘

此賃銀拾壹匁壹分六厘

同廿七日

一内使六人

此賃銀拾壹匁壹分六厘

右同断、

同廿八日

一番船四艘

此賃銀三十七匁式分

同日

一通船式艘

此賃銀拾八匁六厘

同日

一津口番壹艘

此賃銀十匁壹分六厘

同日

一内使六人

此賃銀拾壹匁壹分六厘

右同断、

同廿九日

一番船四艘

此賃銀三拾七匁式分

同廿九日

一通船式艘

此賃銀十八匁六分

同日

一津口番壹艘

此賃銀十匁匁分六厘

同廿九日

一内使六人

此賃銀拾匁匁分六厘

右同断、

同日

一小船八艘

此賃銀貳拾貳匁三分貳厘

右者唐船水切候段願出候ニ付、御差図請水取候半日役、

一小竹壹束

代銀壹匁九分

是者右御用ニ付質警固館木入用、

一繩三束

代銀貳匁貳分

右同断、

一とま八拾枚

代銀三拾匁五分

一すもとにまい

代銀壹匁九分

一七嶋表八枚

代銀拾貳匁

一かやむしろ六枚

代銀拾七匁

一警固船壹艘

此賃銀百目

一加子百五人

但、一日壹艘ニ付加子七人、壹人ニ付銀九分三厘、

此賃銀九拾七匁六分五厘

一白米五斗貳升八合七勺五才

但、一日壹人前ニ米七合五勺、

壹升ニ付九十七文替、

代銀五拾匁匁分八厘

一銀貳拾七匁

是者船加子塩味噌代、長崎迄、

一同百貳拾七匁五厘

是者塩味噌代一日壹人ニ付銀五分宛、

一同三百拾三匁五分 但、一日壹人ニ付米五合宛、

此白米三石貳斗三升貳合

一同六匁七分九厘

此白米七升

一銀貳百六拾目

是者右唐船滞留中、遠見御番人衆中・町御役人・通事・弁指・筆者

諸役人一切小遣、一日ニ銀貳拾匁宛、

一飛船貳艘

此賃銀四拾四匁六分四厘

是者牛深・崎津村遠見御番人方御帰り之節送船両村江六日分、

メ貳貫貳百三拾貳匁三分壹厘



内

九百三拾六匁七分七厘

岡方

壹貫貳百九拾六匁四分四厘

浦方

右者辰年唐船方御用相勤候船加子人足諸色入用、前々々郡中村役高水主数二割賦仕来候、郡中割賦相成候様被仰付可被下候銀辻少茂無相違書記申候条、御奥書被成可被下候、以上、

富岡町弁指

藤左衛門

外二

一小船式艘

但、水主四人・舟加子ノ五人、二日役、

此賃銀拾八匁六分

一同式艘

右同断、

此賃銀拾八匁六分

是者巳三月薩摩々唐人長崎江御差送り之節、富岡湊江滞留中付置候番船如斯、

一銀拾七匁

是者右唐人出船之節、遠見御番人御衆中・諸御役人・弁指見送り之節如斯、

一同拾匁

是者遠見御番人御衆中・町御役人・弁指二日之諸人用如斯、

一同拾七匁

是者巳十一月二江浦唐船挽立之節、遠見御番人御衆中・諸御役人・弁指見送り之節如斯、

ノ七拾九匁七分

寛政十年

富岡町弁指

午七月

藤左衛門

新井繁兵衛殿

八田惣治殿

前書面之通相違無之候、以上、

新井繁兵衛奥印

八田惣治奥印

一小船式艘

但、壹艘五人乗 但、一日壹人二付

船人十式人

銀九分三厘

此賃銀拾壹匁七分六厘

右者正月十八日ノ同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用東西江御出被成候、弁指藤左衛門附添仕、

一同三艘

但、壹艘五人乗 右同断、

船人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者二月廿五日ノ同廿九日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、右同断、

一小船式艘

但、壹艘五人乗 右同断、

船人十式人

此賃銀十壹匁六厘

右者三月十八日ノ同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、同断、

一同三艘

但、右同断、 右同断、

船人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者四月廿日ノ同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東

西へ御出被成候、同断、

一同式艘

但、右同断

右同断

舟人十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者五月十九日同廿三日迄、遠見御番人御衆中浦廻り為御用東西へ御出被成候、右同断、

一同三艘

但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者六月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、同断、

一小船三艘

但、右同断 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者七月廿一日同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、同、

一同三艘

但、右同断 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者八月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、同、

一同式艘

但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

此賃銀十壹匁分六厘

右者九月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、同、

一同三艘

但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者十月十九日同廿三日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、同断、

一小船式艘

但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者十一月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、同断、

一同三艘

但、壹艘五人乗 但、壹人一日二付

舟人十八人

銀九分三リ

此賃銀拾六匁七分四厘

右者十二月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、同断、

船加子ノ百八拾六人

此賃銀ノ百七拾式匁九分八厘

是者寛政三年亥年分

浦廻り

一小船式艘

但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者正月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同三艘 但、右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者二月廿五日同廿九日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同式艘 但、右同断、

船人十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者閏二月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用とし  
て東西江御出被成候、

一小船三艘 但、壹艘五人乗、

船人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者三月十九日同廿四日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一小船式艘 但、右同断、

船人十二人

此賃銀十壹匁分六厘

右者四月廿日同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東  
西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗、

船人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者五月十九日同廿四日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同式艘 但、壹艘五人乗、

船人十式人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者六月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗、

船人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者七月廿一日同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗、

船人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者八月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者九月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同式艘 但、右同断、

舟人十二人

此賃銀十壹匁分六厘

右者十月十九日同廿三日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同三艘 但、右同断、 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者十一月十七日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一小船式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

此賃銀十一匁壹分六厘

右者十二月十七日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同 船加子ノ百九拾八人

此賃銀ノ百八十四匁壹分四厘

是者寛政四年子年分

一小船式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者正月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同三艘 但、右同断、 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者二月廿五日同廿九日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一小船式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

此賃銀十壹匁分六厘

右者三月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者四月廿日同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者五月十九日同廿四日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者六月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一小船三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者七月廿一日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

船人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者八月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

船人十式人

此賃銀十壹匁分六厘

右者九月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者十月十九日同廿四日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同式艘 但、右同断 右同断、

舟人十二人

此賃銀十壹匁一分六厘

右者十一月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用とし

て東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者十二月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用とし

て東西江御出被成候、

船加子ノ百八拾六人

此賃銀ノ百七拾式匁九分八厘

是者寛政五丑年分

一小船式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

船人十式人

此賃銀十一匁壹分六厘

右者正月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

船人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者二月廿五日同廿九日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

船人十二人

此賃銀十一匁壹分六厘

右者三月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

船人十八人

此賃銀十六匁七分六厘

右者四月廿日同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東

西江御出被成候、

一同式艘 但、右同断 右同断、

舟人十二人

此賃銀十一匁壹分六リ

右者五月十九日同廿四日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同三艘 但、右同断 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者六月廿三日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分六厘

右者七月廿一日同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同三艘 但、右同断 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四リ

右者八月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東  
西江御出被成候、

一同貳艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十二人

此賃銀十一匁壹分六リ

右者九月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

船人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者十月十九日同廿三日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同貳艘 但、右同断 右同断、

舟人十二人

此賃銀十匁壹分六厘

右者十一月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用とし  
て東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者閏十一月十九日同廿三日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用と  
して東西江御出被成候、

一小船貳艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

此賃銀拾壹匁壹分六厘

右者十二月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

船加子ノ百九拾八人

此賃銀ノ百八拾四匁壹分四厘

是者同寅年〔寛政6〕分

一小船貳艘 但、右同断 右同断、

船人十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者正月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同三艘 但、右同断、 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者二月廿五日同廿九日迄、御番人御衆中浦廻御用として東西江  
御出被成候、

一小船式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

此賃銀十一匁分六厘

右者三月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻御用として御  
出可被成候節、弁指藤左衛門附添、

一同三艘 但、右同断、 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者四月廿日同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として御  
出被成候、

一同式艘 但、右同断、 右同断、

舟人十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者五月十九日同廿三日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者六月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同三艘 但、右同断、 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者七月廿一日同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻御用として御  
出被成候、

一同三艘 但、右同断、 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者八月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻御用として東  
西江御出被成候、

一同式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十二人

此賃銀十匁分六厘

右者九月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として  
東西江御出被成候、

一同三艘 但、右同断、 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者十月十九日同廿三日迄、御番人御衆中浦廻り御用として東西  
江御出被成候、

一同式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者十一月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者十二月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

船加子ノ百八拾六人

此賃銀ノ百七拾式匁九分八厘

是者寛政七年卯年分

一小船式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者正月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り為御用東西江御出被成候、

一同三艘 但、右同断、 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者二月廿五日同廿九日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同式艘 但、右同断、 右同断、

舟人十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者三月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り為御用東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者四月廿日同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同式艘 但、右同断、 右同断、

舟人十二人

此賃銀十一匁分六厘

右者五月十九日同廿四日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者六月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者七月廿一日同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として御出被成候、

一同三艘 但、右同断、 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘



右者八月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として御出被成候、

一同式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者九月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者十月十九日同廿四日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同式艘 但、右同断 右同断、

舟人十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者十一月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者十二月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

船加子メ百八拾六人

此賃銀メ百七拾貳匁分八厘

是者寛政八辰年分

一同式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

右者正月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分三厘

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者二月廿五日同廿九日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同式艘 但、右同断 右同断、

舟人十二人

此賃銀十壹匁分六厘

右者三月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として東西江御出被成候、

一同三艘 但、右同断 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者四月廿日同廿五日迄、遠見御番人御衆中、右同御用、

舟人十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者五月十九日同廿四日迄、遠見御番人御衆中、右同御用、

一同三艘 但、右同断 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者六月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分三厘

右者七月廿一日同廿五日迄、遠見御衆中浦廻為〔ママ〕御用として  
東西江御出被成候、

一同式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者閏七月十八日同廿三日迄、遠見御番人御衆中、同御用、

一同三艘 但、壹艘五人乗 右同断、

船人十八人

此賃銀十六匁七分三厘

右者八月廿日同廿四日迄、遠見御番人御衆中、浦廻り、同御用、

一同式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十二人

此賃銀十壹匁分六厘

右者九月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中、同御用、

一同三艘 但、右同断 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者十月十九日同廿四日迄、遠見御番人御衆中、右同御用、

一同式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

此賃銀十一匁一分六厘

右者十一月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中、右同御用、

一同三艘 但、右同断 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者十二月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中、右同御用、  
加子ノ百九拾八人

此賃銀ノ百八十四匁分四厘

是者寛政九巳年分

一小船式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

船人十式人

此賃銀拾壹匁分六厘

右者正月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用、

一同三艘 但、右同断 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者二月廿五日同廿九日迄、遠見御番人御衆中、右同御用、

一同式艘 但、壹艘五人乗 右同断、

舟人十式人

此賃銀十壹匁分六厘

右者三月十八日同廿二日迄、遠見御番人御衆中、右同御用、  
一同三艘 但、右同断 右同断、  
舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者四月廿日同廿五日迄、遠見御番人御衆中、右同御用、

一同式艘 但、右同断 右同断、

舟人十二人

此賃銀十一匁壹分六厘

右者五月十九日同廿四日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

一同三艘 但、右同断 右同断、

舟人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者六月廿二日同廿六日迄、遠見御番人御衆中、右同御用、

一同三艘 但、壹艘五人乘 右同断、

船人十八人

此賃銀拾六匁七分四厘

右者七月廿一日同廿五日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

東西江御出被成候、

船加子ノ百八人

此賃銀ノ百目四分四厘

是者寛政十年年分

船加子惣ノ高千四百四拾六人

六十文替

此賃銀惣ノ高壹貫三百四拾四匁七分八厘  
十九文錢二而四貫貳百四拾六匁六分七厘

右之通相違無御座候、以上、

午七月

富岡町弁指

藤左衛門

新井繁兵衛殿

八田惣治殿

前書面之通相違無之候、以上、

新井繁兵衛印

八田惣治印

外二

一小船三艘

但、壹艘五人乘

右同断、

船人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者八月十七日同廿一日迄、遠見御番人御衆中浦廻り御用として

御出被成候、

一同式艘 但、壹艘五人乘 右同断、

船人十式人

此賃銀十一匁一分六厘

右者九月廿一日同廿五日迄、遠見御番人御衆中、同御用、

一同三艘 但、右同断 右同断、

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者十月廿四日同廿八日迄、遠見御番人御衆中浦廻り、右同御

用、

一同式艘

但、右同断、

此十七貫七百文四分

舟人十二人

此十九四百五匁分八厘四毛

此賃銀十匁分六厘

右者十一月十九日同廿四日迄、遠見御番人御衆中浦廻御用として

未三月十三日

御出被成候、

一番船壹艘

但、四人乗

一同三艘

但、壹艘五人乗、右同断、

舟人五人之積り

舟人十八人

此賃銀十六匁七分四厘

右者十二月十七日同廿一日迄、浦廻り御用として遠見御番人御衆

一見送り船壹艘、但、右同断

中御出被成候、但東西二御出被成候、

此賃銀右同断

船加子ノ七拾八人

同日

此賃銀ノ七拾貳匁五分四厘

一銀拾五匁

是も同午年八月ノ十二月迄之分

是者遠見御番人様・諸御役人様・問屋衆中、内使等賄、入用、

ノ丁銀

一人足四拾五人、但、一日一人ニ付銀九分三厘、

貳拾四匁三分

此賃銀四拾壹匁八分五厘

此丁錢貳貫四百三拾文、十九文錢ニ直し百廿七匁八分九リ、

右者遠見御番人様御衆中、西放火場江正月ノ十二月迄折々御見分御

右者当未三月十三日薩州漂着唐船滞中ニ而取放、質唐人警固役乗船

出被成候節、人足差出申候、

式艘、船繫ニ付指出申候、

一人足拾五人、右同断、

二口ノ五百三十三匁分七リ四毛ニ成ル

此賃銀拾三匁九分五厘

右之通知斯ニ御座候、以上、

是者唐船壹艘牛深村江漂着、午十二月廿六日同廿八日迄、遠見御

寛政十一未年七月

番人御衆中、放火場江御詰被成候、御役所江之御状夫ニ差出申候、

人足ノ六十人

差出申一札之扣

此賃銀ノ五拾五匁八分

寛政十一未七月

二口合テ百廿八匁三分四厘

一当六日船津町漁師死去仕、葬式之節私共無何心絹類着用仕候段被及

御沙汰二一言之申訳も無御座奉恐入候、去辰年御仕法被仰付、郡中一同相守居候処、此節右躰不埒之儀仕候二付御咎不被仰付候而者町方之締方二も相成不申候段被仰聞、御尤千万委細承知仕候、然ル処此節之儀表向二相成候而者如何様之御咎可被仰付儀も難計奉恐入候二付、永田屋彦左衛門殿前書文之通、此節不埒之段於私二も甚行届不申奉恐入候、表向御咎二相成候而者私迄至而迷惑二奉存候間、永田屋彦左衛門殿ヲ以段々御断申上候処御聞届被下忝奉存候、以後之儀者船津中江急度相守候様可申聞旨被仰渡奉畏候、以来之儀者心得違不仕様精誠可申聞候、若相背候もの御座候ハ、私如何様之御咎二も可被仰付候、為其奥書印形仕候而差上申候、以上、

弁指

藤左衛門 印

町御役人御衆中

阿蘭陀御用扣

未六月十二日

一船貳艘

但、船加子共二十四人

此賃丁銀十三匁貳厘

是者見届ケニ参申候、

同日

一同壹艘

但、船加子共二十三人

此賃丁銀十匁九厘

右者御役所様・遠見御番人様・町御役人様御見届ケニ御出被遊候、

同十三日

一番船五艘

但、船加子共二三拾五人

此賃丁銀三十匁五分五リ

同日

一援船三拾艘

但、船加子共二貳百拾人

此賃丁銀百九十五匁三分

是者十三日夕援船用迄仕候様被仰聞、早速承知仕候、

同日

一勤番船壹艘

但、二艘二立、但、船加子共二十式人、

此賃銀拾壹匁分六厘

右者御役所様・遠見御番人様・町御役人様沖中ニ御出被成候、

同日晩

一勤番船壹艘

但、二艘分二立、但、船加子共二十式人

此賃銀拾壹匁分六厘

同十四日

一番船五艘

但、船加子共二三拾五人

此賃銀三拾式匁五分六リ

同日

一勤番壹艘

但、二艘分二相立、但、加子共二十二人

此賃銀拾壹匁分六厘

同日

一援船三拾船

但、加子共二貳百拾人

此賃丁銀百九十五匁三分

同十五日

一番船五艘

但、舟加子共二三拾五人

此賃丁銀三拾式匁五分五厘

同日

一 勤番船壹艘 但、式艘分ニ相立候、但、船加子共二十二人

此賃丁銀十壹匁三分六厘

同十五日

一 援船三拾艘 但、船加子共二式百拾人

此賃丁銀百九十五匁三分

船加子合テ八百拾人

此賃銀合テ七百五拾三匁三分 但、銀壹匁百文之立ニ定メ

此丁錢七拾五貫三百三拾文

此十九 三貫九百六拾四匁七分

外ニ

一 飛船壹艘 但、船加子共二七人

此賃錢九拾五匁

是者崎津村遠見御番人御帰り并通事殿一同ニ御出之節飛船差立申

候、

一十九錢八百八拾壹匁

諸雜用

二口メ九百七拾六匁

是ハ六月十二日夕同十五日遠見御番人様・町御役人様御賄、遠見場

下役・舟津人足并夜分蠟燭火ヲ立候薪代・飛船賃共ニ、

都合四貫九百四拾匁七分

右者六月十二日富岡沖間江阿蘭陀船漂着、碇ヲ入候ニ付諸入用如斯ニ

御座候、以上、

寛政十一年

未六月

弁指

藤左衛門

新井繁兵衛殿

八田惣治殿

阿蘭陀漂着御用状之写

一 阿蘭陀船見物船其外漁船たりとも決而近寄せ不申候様、勤番船へも呉々申付、猶又町中へも申触候様、

一 右漂着ニ付牛深御普請役出役可被致も難計候ニ付、荒木市良左衛門宅掃除手当之事、

一 援船三拾艘、早速乗出候様手当致置可申候、

尤唐船漂着与違、難船之阿蘭陀船ニ候間、若南風烈敷急々湊内ニ援入候節、船不揃ニ而遅候而者嶋原表御加勤ニも相成事故、急度揃置才領之者両、三人申付候事、

一 最寄之所江出役宿申付候敷、尤間遠候ハ、仮家建出役相詰候ニ付村難仕出町役人壹人候ハ、相詰候事、

左太夫

人数十人 上下四人

弥源太

上下五人

手代

銀四郎

一通船式艘、会所下波嶋場、同式艘出役相詰候旅宿下浜江繫置、何時

ニ而も無滞乗出相成候様急度申付候事、小指此方夕相渡候、

願書之扣

右者阿蘭陀船漂着ニ付、近番船・番船・引船小差出候様被為 仰付

奉畏候、早速差出御用相勤申候、右諸雜用書面之通ニ御座候、然ル所御存之通近年相続不漁仕、其上町方ニ而も借用出来不仕候付而者浦方難儀仕候儀ニ御座候間、御憐愍之上何卒諸方弘方等仕候様被為

仰付被下置候ハ、難有可奉存上候、以上、  
未六月廿日

二江浦  
年寄御衆中

誤証文之扣

一先月廿四日迄火留メ之儀御申触有之候処、私共ハ御存之通所論合ニ付御当地江罷出居合不申候故、網子共了簡違仕、前床江火入候無調法ニよりて富岡御支配之内者東西共長々御差留ニ御申付被下候段御尤ニ奉存候、依之左様相成候而者網持中永々難儀仕極ニ奉存候故、富岡網宿屋衆中御願申段々御断申上候得共、御聞濟無之候処、宿や衆中久屋善四郎殿御願立度々御断申上被下候処、左様成儀ニ御座候ハ、右世話衆中江たいし御聞濟被下候段重々忝仕合ニ奉存候、依之以来火留御触出之節者急度無間違相守可申候、万一不埒之儀有之候節者右宿屋中ハ罷出網諸道具請取差上、其上永々御差留メ被下候共、一言之御断中間鋪、為後日請人以連印一札差出申候、依而如件、

富岡網持御衆中

二江浦  
網持中

態以飛脚致啓上候、然者去冬羽倉様御入部之節被 仰渡候通、例年其御地出情被成干蛇浦請一件之儀、当年之処如何被成候哉、浦請被成候ハ、各方一兩人御出被成候而御相談可然与奉存候間、此段其節ニ至候而差当り申遣候而も如何敷奉存候間御掛合申懸候、御相談之上当年御請被成候ハ、左之通御返事可被下候、右之段前以御掛合之ため如斯ニ御座候間、右御相談被成御返事奉待候、早々以上、

三月二日

網持中

態以飛脚致啓上候、然者其御地皆々御揃被成珍重ニ奉存候、誠ニ拙者儀不相替居申候、乍慮外貴意易答可被下候、一先達而も申懸候通り、例年出情ニ而干蛇一件之儀申遣候得共、何之無御左右も候間又々一人差遣候、右 御用之儀ニ候間、以前定置度存候間、其御地所中御相談被成候而、此段御返事可被下候、何分御談合被成候ハ、一兩人今明日中ニ御出可被成候、誠ニ御用之儀ニ御座候得者早々相定メ度存候間、左様御承知可被成候、万一間違ニ相成り候而者甚無念ニ成り申候間、御用間違、且者双方迷惑ニ相成候間、御役所ハ被仰付候趣ニ而難計存候間、何れ御出之上相談可致候、御返事御左右待入申候、以上、

未四月十一日  
藤左衛門  
所中  
右ハ御用状之扣

二江浦  
網持衆中

態以壱人啓上仕候、昨日も差遣候得共、何之訳合も相分不申候、如何様ニ被成候哉、乍御世話御知らせ可被下候、右之段差当り申遣候而者間違ニ相成申候間、左様思召御返事之程早々奉待候、以上、

未四月十二日  
富岡町弁指  
藤左衛門

二江弁指  
勝蔵様



同返書之写

御紙面忝拜見仕候、然者例年出情ニ而匏之儀被御申越承知仕候、未旬合ニ相成不申候間、来月之末頃分六月ニかけ旬合ニ相成候間、夫迄者如何様成儀ニ候得共、夫迄者相談之儀申懸候事相成不申候間、左様御承知可被下候、猶又潜中江も旬合ニ相成候ハ、申付宜敷相談可仕候、右御返事早々如斯ニ御座候、以上、

未四月十二日

二江浦弁指

勝蔵

弁指

藤左衛門様

公義出候御書附之写

在々におゐて神事祭礼之節、或者作物虫送風祭杯と名付芝居見せ物同様之事を催し、衣裳道具等をも拵へ見物人を集、筆紙を費し候儀有之由相聞不埒之事ニ候、右様之義企、渡世ニ致者ハ勿論其外ニも風儀悪舗旅商人或者河原者拵決而村々江為立入申間舗候、遊興惰弱よからぬ事を見習、自然と耕作も怠り候よりして、何れ農地多く困窮ニ至り終其果者離散之基ニも成候事ニ候間、右之次第を能弁へ候様ニ可心掛候、仍而自今以後遊芸歌舞浄瑠璃之類、惣而芝居同様いへ集堅制禁たるべく候、今度右之通相触候上ニも不相心得ニおゐてハ無用捨急度答可有之者也、

右之趣御料者御代官并其所ニて奉行御預所・私領分領主・地主・寺社領ともニ不洩様相触無油断令吟味、小給所々分ハ最寄御代官も常々心付候様可致候、  
寛政十一年

未六月

態申触候、從 公義出候御書付之写忝通前ニ差廻候間、村々端々迄不洩様可申候、当郡者例年風祭願舞芝居として豊後・肥後辺ハ歌舞妓役者共年々渡海致来候趣相聞候、右躰之者以乘決而入込を不申様可申付旨、嶋原も申来候間、公義御書付之御趣意堅相聞候様急度可申付候、以上、

八月朔日

富岡御役所詰御役人

大嶋弥四郎

同

荒木左太夫

富岡

志岐村

村々所々

別紙之通触状遣候間、早々被達受印之通留り村分可被遣候、以上、

八月二日

富岡詰御代官

近藤恵十郎

同

成田弥源太

東西村々

大庄屋

庄屋

二江行火留状之扣

先刻以飛脚申遣処、火留之儀不承知之様子ニ而御座候故、又々忝人差



立申候儀者向暑之差障りニ相成候故、是非々々此やみ中者火留メ仕筈  
ニ御座候間、左様思召可被下候、万一火留メ御聞届ケ無之候へ者、私  
共方ハ沖中へ罷出網舟かた等ニ至迄取揚可申候、左様相成候而甚氣之  
毒ニ存候間、右火留メ之儀向やみ廿三日迄ハ決而相成不申候、網持中  
へも差留メ可被成候、早々如此ニ御座候、以上、

八月十日

船津

二江村弁指

網弁指中

勝蔵様

同

網持中

是ハ式本目之状

態与以老人致啓上候、向寒之節ニ御座候得共、其御地皆々様御無事之  
由珍重ニ存候、随而拙者儀無事ニ罷居申候、乍慮外左様御承知可被成  
候、然者今曉ハ廿八日迄ハ火留致候間、左様御心得可被成候、右申懸  
度如此ニ御座候、以上、

十月廿二日

二江弁指

勝蔵殿

網持中

寛政十一

未十月十三日

一挽船五艘

但、壹艘ニ八人乗

船人共二九人

ノ四拾五人

同四日

一同 五艘

右同断

同五日

一同 五艘

右同断

同六日

一同 五艘

右同断

合船人百八拾人 老人二付百文宛

此賃錢拾八貫文

一 粮米壹石八斗 但、壹日一人二付

壹升二付六拾五文

代錢拾壹貫七百元

合三拾貳貫百五拾五文

右ハ四日之間毎日灘中迄御迎ニ差出候趣者日々御注進申上候、

未十月

一挽船五艘

但、壹艘二付八人乗

船人共二九人

ノ四拾五人

此賃錢拾三貫五百文 但、老人二付三百文宛

賃錢ノ三拾壹貫五百文

一 粮米九斗 但、壹升二付六拾五文

代錢五貫八百五拾文

合拾三貫三百五拾文

二口ノ四十四貫八百五拾文 十九文錢貳貫三百六拾五文

右者小林様御帰帆之節、茂木村迄参申候、

申四月八日

一挽船五艘 但、壹艘二七人乗

船人共二八人

ノ四拾人

此賃錢四貫文 但、壹人二付百文宛

同

一粮米三斗五升 但、壹升二付七拾六文

代錢貳貫六百六拾文

同九日

一同 五艘 右同断

右同断

同日

一粮米三斗五升 右同断

代錢右同断

同十日

一同 五艘 右同断

右同断

同日

一粮米三斗五升 右同断

代錢右同断

同十一日

一同 五艘 右同断

此賃右同断

一粮米三斗五升 右同断

代錢右同断

賃錢ノ拾六貫文

粮米代錢ノ拾貫六百四拾文

二口合貳拾六貫六百四拾文

右八岩原御普請役川村森八様御渡海之節、茂木村間近参申候、

申四月廿日

一挽船五艘 但、壹艘二七人乗

船人共八人

ノ四拾人

此賃錢拾貳貫文

但、壹人二付三百文宛

同日

一粮米七斗 但、二日分

代錢五貫三百廿文 但、壹升二付七拾六文

二口合十七貫三百廿文

惣合四拾三貫九百六拾文

十九錢貳貫三百拾三匁六分八厘四毛

右八岩原御普請役関口祐助様御帰帆之節、茂木村迄参申候、

又惣合四貫六百七拾四匁壹分八厘

都合拾貳貫四百四拾四匁四分七厘

是八午九月申四月迄長崎御奉行松平石見守様始メ、同岩原御普請役送迎賃錢粮米代扣置申候、

寛政十一未正月迄浦廻り扣

一小船貳艘 但、壹艘二付五人乗 但、壹日一人

船人共二六人 二付銀九分三厘

六十文銀

此賃銀拾壹匁壹分六厘

右者正月十八日夕同廿二日迄遠見御番人御衆中、浦廻御用として東西江御出被成候、

二月

一同 三艘 但、右同断

此賃銀十六匁七分四厘

三月

一同 式艘 右同断

此賃銀拾壹匁壹分六厘

四月

一同 三艘 右同断

此賃銀拾六匁七分四厘

五月

一同 式艘 右同断

此賃銀拾壹匁壹分六厘

六月

一同 三艘 右同断

此賃銀拾六匁七分四厘

七月

一同 式艘 右同断

此賃銀拾壹匁壹分六厘

八月

一同 三艘 右同断

此賃銀拾六匁七分四厘

九月

一同 式艘 右同断

此賃銀拾壹匁壹分六厘

十月

一同 三艘 右同断

此賃銀拾六匁七分四厘

十一月

一同 式艘 右同断

此賃銀拾壹匁壹分六厘

十二月

一同 三艘 右同断

此賃銀拾六匁七分四厘

船人ノ百八拾人

此賃銀ノ百六拾七匁四分

此丁錢拾貫四文四合

十九錢五百廿八匁六分

右之通御座候、以上、

申四月 日

弁指

藤左衛門印

新井繁兵衛殿  
八田惣治殿

取替申一札之事

一富岡町・志岐村山海稼方之儀ニ付双方ノ 御役所江願書差上候処、

御聞糺之上已来稼方左之通被 仰渡候、

一富岡秣場之儀者是迄之通相心得可申事、

一 富岡之内五丁目并下町・御旅町漁致候者計、志岐村海内極月廿五日  
 の口明双方申合候而、是迄之通り入会取場可申候、尤志岐村の歩行  
 浜稼并他村雇船等いたし罷越候儀不相成事、

但、往古之訳合有之書面之通相極候事、

一 志岐村山之儀者是迄之通相心得可申事、

一 志岐村海内若和布之儀、極月廿五日の口明双方申合、富岡町之内五  
 丁目并下町・御旅町漁致候もの計、入会是迄之通取せ可申候、尤雇  
 船いたし罷越候儀者不相成事、

一 志岐村之もの、富岡海内藻之儀、已前ハ取候事ニ付、富岡の藻口明  
 候二、三日已前ニ志岐村江相しらせ候上、同日の入会ニ取可申候、  
 尤他村船相雇罷越候儀并歩行浜稼不相成事、

右之通此度被 仰渡候、然ル上者双方共右ヶ条書之通堅相守、以来彼  
 是申論等致間敷候、為後念連印取替証文一札仍如件、

寛政十三酉年二月廿九日

志岐村百姓代

為助

同

久五郎

同

弥六

同

奎蔵

同

半左衛門

同

源右衛門

同

才助

同

市郎右衛門

同

儀左衛門

同

所平

同

有右衛門

同

由松

同

常兵衛

同

与兵衛

同

久兵衛

同

半右衛門

同村年寄

弥平次

同

覚兵衛

同

市蔵

漁師中

同

寛政十三年酉二月、右志岐取合一件二付、御役所御召出し二付罷出候者名前左二印ス、

安右衛門

弁指 藤左衛門 下役 六左衛門 同 善左衛門

志岐村大庄屋

網持 孫七 同 十八 左兵衛

平井為五郎

小網持 吉次 同 平次郎 同 与次右衛門

富岡町年寄

右之人数 御役所へ罷出申候処、志岐一件之儀者双方書付取替

村川弥藤次殿

御ヶ条之通相違無御座二付承知仕候而、右罷出候人数二而申上候ハ

同

岡部伝四郎殿

外村も志岐同前二申参候節ハ如何ニ相成可申哉と御尋申上候ハ

同

高橋喜八郎殿

御役人様御詰被遊候中ハ別条も御座有間敷奉存候へ共、あなた様方

同

同町庄屋

り可致旨被 仰候二付、又々此方申上候者有難奉存候、併只今之

荒木市郎左衛門殿

御帰り被遊候後、外之御役人様御詰被遊候節如何ニ相成可申哉、此

同肝煎

順蔵殿

段歎ヶ敷奉存候段申上候処、又々被仰候者此節右極置候通何れ之役

同月行司

利作殿

人参り候而も只今極置候二少茂間違無之段堅被仰聞候間、浦方中も

同

同

あんと仕事相済申候、

同

同

御役所詰御名前

同

同

御役人 富田勝兵衛様

同

同

同 奥村又左衛門様

同

同

御代官 大竹半兵衛様

同

同

内田時兵衛様

同

同

同 長瀬次郎作様

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

聞候者、当廿二日夕和布之尋候筈にて町方ニも為知候様承候得共、  
内々ニ訳合有之候ニ付二月朔日夕取候様被 仰聞候ニ付奉畏罷帰り申  
候、御立会之御役人

村川弥藤治様

岡部伝四郎様

高橋喜八郎様

荒木市郎左衛門様

誤り申一札之事

一去申冬嘉津佐釣船浦方御進上として錢三百目請取、浦方衆中江一  
向砂汰不仕、私共所持仕居申候処、甚心得違ニ而御座候、然ル所当  
暮浦方衆中夕御吟味之上糺方ニ相成、幾重ニも誤り之段御断可申筈  
之処、醉狂之上、過言之申御了簡被成かたく、早速御届可被成趣御  
尤千万ニ奉存候、併左様被成下候而ハ私共何分ニ相成可申哉も難計  
ニ付、五町目十郎左衛門殿・平次兵衛殿、右兩人御願申段々御断申  
上候処、御了簡被成下千万忝奉存候、已来急度相鎮、右躰之義決而  
仕間敷候、且又此後是迄相極り居候夕外、新法之義仕間敷候、万  
一左様之儀御聞および御座候ハ、請人方夕急度相糺浦方衆中江少茂  
御世話掛申間敷、為後念請人以連印誤り証文差出申処、仍而如件、  
享和元年西十二月

誤り主

下夕町中

同

甚五郎印

同

平三郎々

同

三四郎々

同下役

忠左衛門々

五町目受人

平次兵衛々

同

十郎左衛門々

浦弁指

藤左衛門殿

同下役

六左衛門殿

同

善左衛門殿

同

浦方衆中

子十一月廿五日六ツ時唐船漂着扣

一 近番船通イ船番船 合拾壹艘 但シ壹艘ニ付五人乗

水主舟共ニ六拾六人

右者廿五日晚分、此賃六百六拾匁 但シ壹人ニ付拾九文錢拾匁宛

一 飛船壹艘 但シ富岡町より茂木村迄往来二日

壹艘ニ付拾九文錢八拾七匁五分、尤五人乗

此賃百七拾五匁

右者唐船漂着ニ付廿六日早朝ニ長崎御役所江御用ニ付遣シ候飛船、  
一 近番船通イ舟番船 合式拾六艘 但シ壹艘ニ付五人乗

水主舟共百七拾六人

此貨壹貫七百六拾匁 但シ壹人ニ付拾九文錢拾匁宛

右者同廿六日暮夜 舟水主共合右高

一 拾九文錢四百五拾匁 但シ上下三拾人、尤壹人ニ付十九文錢五匁

ツ、

右者牛深唐船・富岡唐舟出帆之節、御番所様・町御役人衆中御立合

ニ而両唐舟御見送ため西火立場江御出之節諸入用、尤廿八日夕卅日

迄ノ右高

一 拾九文錢百五拾匁 但シ上下三拾人、壹人ニ付十九錢五匁

右者牛深質唐人、十二月二日ニ出帆致、御番所様・町御役人衆中御

立合ニ而、西火立場江御出之節諸用、合右高、

一 小船式百拾艘 但シ一日壹艘ニ付銀拾七匁三分八厘

子十一月廿七日夕同十二月三日迄日数七日、一日三

拾艘宛

此貨三貫六百四拾九匁八分

一 質唐人乗船六艘 但シ一日ニ付銀七匁五分、子十一月廿八日夕同

十二月三日迄日数六日、一日ニ壹艘宛

此貨四拾五匁

一 加子六拾人 但シ一日壹人ニ付銀式匁宛、日数六日、一日ニ

拾人ツ、

此貨銀百式拾目

一米四斗五升 但シ一日ニ壹人ニ付米七合五匁、加子六拾人、

石二付六十五匁

此銀式拾九匁式分九厘

一 飛船壹艘 但シ富岡町より崎津村迄往来二日、壹艘ニ付銀拾

七匁三分八厘

此貨銀三拾四匁七分六厘

右者唐船漂着ニ付富岡町夕崎津村迄通詞呼ニ遣シ候飛船、

一同 壹艘 但シ富岡町夕嶋原領口ノ津迄往来二日、壹艘ニ

付銀拾七匁三分八厘

此貨銀三拾四匁七分六厘

右者唐船漂着ニ付富岡町夕嶋原領口ノ津迄通詞呼ニ遣候飛船、

一同 六艘 但シ一日壹艘ニ付銀拾七匁三分八厘、富岡町夕

嶋原迄往来二日、日数六日、一日ニ壹艘宛

此貨銀百四匁式分八厘

右者唐舟漂着ニ付嶋原へ御届申上候飛船并唐人米・薪・水・野菜・

豆腐相望候ニ付御届ケ壹度、唐船挽立出帆御届ケ壹度、都合三度富

岡夕嶋原之飛船、

一同 壹艘 但シ一日壹艘ニ付銀拾七匁三分八厘、富岡夕長崎

迄往来二日、日数四日、一日ニ壹艘宛

此貨銀六拾九匁五分式厘

右者富岡より長崎嶋原御屋敷迄御状御届ケ申上候飛船、

一同 壹艘 但シ

此貨銀拾七匁三分八厘

右者瀬戸口より御注進之飛船、

一同 壹艘 但シ

此貨銀拾七匁三分八厘

右者瀬戸内より御注進之飛船、

一同 壹艘 但シ

此賃銀拾七匁三分八厘

右者高降嶋より御注進之飛船、

一白米壹石貳斗 但シ石二付六拾五匁替

此銀七拾八匁

一豆腐貳拾五丁 但シ壹丁二付銀壹分七リ

此銀四匁貳分五厘

一炭五俵 但シ壹俵二付銀三匁五分

此銀拾七匁五分

一大鯛三枚 但シ壹枚二付銀七匁替

此銀廿壹匁

一唐芋三百斤 但シ百斤二付銀六匁替

此銀拾八匁

一鰯 但シ壹斗二付銀六匁替

此銀四拾五匁

一大根七百斤 但シ百斤二付銀六匁替

此銀四拾貳匁

一銀七拾貳匁 但シ一日壹人二付銀六匁宛

右者質唐人貳人、子十一月廿八日同十二月三日迄賄、

合銀四貫四百三拾七匁貳分六厘

右者来朝厦門出之唐船壹艘、子十一月廿七日天草郡富岡湊漂着仕

候ニ付、長崎江挽送申候、諸色入用如斯御座候、以上、

富岡才領

治兵衛

同

子十二月三日

平次郎

同弁差 藤左衛門

崎津通詞

玉木虎之助

長崎

嶋原屋早太殿

覚

一銀四貫四百三拾七匁貳分六厘

内

三百五拾四匁九分八厘 子十二月廿七日迄、八ヶ月分、歩壹歩引

五拾匁 右賃銀請取二付諸向謝物入用

五拾貳匁五分 用達弁当料七匁五分、七日分

百廿壹匁貳分五リ 宿礼諸色日数七日五人分入用

貳拾匁 大波戸小者入用茶代共二

七拾六匁七分五厘 右賃銀請取二参申候飛船糧米諸色弁指共長

崎逗留賄料

メ六百八拾九匁壹分三厘

差引残而三貫七百四拾八匁壹分三厘

右之通挽賃銀諸入用差引銀高書面二而御座候、以上、

丑正月

弁指

藤左衛門

子年臨時丑六月割合有之左之通

一挽船拾五艘



此賃銀壹貫三百五拾目 但、壹艘五人乘、一日一艘二錢九拾目

宛舸子賃共

是者岩原御役人様御交代之節、毎日灘中迄迎船ニ罷出、

但、子四月十日分同十二日迄、日数三日賃錢如斯、

一人夫賃錢百三拾五匁 但、一日錢四拾五匁宛

是者右同断、弁指并其外人夫遠見場江毎日罷出諸入用并人夫賃共、

日数三日分如斯、

一挽船五艘

此賃錢六百目 但、壹艘五人乘、一日一艘二錢百貳拾

目宛舸子賃共

是者岩原御役人様御歸之節、茂木村迄挽送り、但、子四月十八日、

日数一日分、賃錢如斯、

一浦廻船三拾五艘

此舸子貳百拾人 但、壹艘五人乘、一日一人二銀九分三

厘積り

此賃錢六百拾六匁七分

是者遠見御番人様子正月分同十二月迄、東西江御廻浦被遊候節相勤

候賃錢如斯、

一人夫賃錢貳百目

是者牛深唐船出帆之節、遠見御番人方問屋弁指其外下役人遠見場江

御出被成候節諸入用、但、子十一月廿七日分同廿九日迄、日数三日

分如斯、

メ貳貫九百壹匁七分

去子十一月廿五日富岡湊江唐船入津ニ付滞船中被召使候船、

舸子・飛脚・人足諸入用左之通、

同廿五日

一小船四艘

此賃銀五拾貳匁八厘 但、壹艘二付六人乘、船かこ共七人、

船かこメ廿八人、一日壹人二付銀三

匁五分六厘宛

是者唐船相見候二付、遠見御番人・町御役人・問屋・弁指乗組、

沖間江御出御用御勤被成候節如斯、

同日

一飛脚貳人

此賃銀拾貳匁五分

是者右唐船漂着ニ付、崎津附御番所并通事方江御状參候節、夜通し

差遣候飛脚賃如斯、

同日

一飛脚貳人

此賃銀貳拾目

是者右唐船漂着ニ付、牛深湊御番所江御蒐合之御状參候節、飛脚夜

通し差遣候賃錢如斯、

同日

一内夫六人

此賃銀壹匁六分六厘

是者右唐船漂着ニ付、昼夜小遣ニ相勤申候人夫賃如斯、

一津口番船五艘

但、壹艘五人乘、船共六人

此賃銀五拾七匁

メ三十人、一日壹人二付銀壹匁八分六厘宛

是者右唐船滞舟中相勤、去子十一月廿五日分同廿九日迄、日数五

日分賃銀如斯、

一番船式艘

但、右同断ノ百廿人、一日壹人賃銀右

日分如斯、

同断

一銀式百式匁七分

但、壹人二付米五合宛

此賃銀式百式拾三匁式分

此白米壹石六斗

是者右唐船滞舟中一日ニ四艘宛唐船近ク番仕御用相勤、但、同廿五日ノ同廿九日迄日数五日分如斯、

是者唐船滞舟中、遠見御番人・町御役人・問屋・弁指・月行司其外一切糧米如斯、

一通船拾五艘

但、乗組右同断、船舸子メ此賃銀百八

一銀三百三拾目

匁八分八拾人、賃銀右同断

是者右御用二付、遠見御番人・町御役人・問屋・弁指・月行司・使

是者右唐船滞舟中一日三艘宛被召使候通舟御用相勤、同廿五日ノ同廿九日迄、日数分賃銀如斯、

夫、薪・油・味噌・醬油・野菜・肴代其外諸入用如斯、  
一内夫式拾人

一小船八艘

此賃銀百拾九匁五厘

此賃銀三拾七匁式分

但、一日壹人銀壹匁八分六厘宛

但、壹艘七人乗、船共八人メ六十四人、

是者同廿六日ノ同廿九日迄日数四日、一日五人宛相勤申候、

一日壹人銀壹匁八分六厘宛

一小船壹艘 但、五人乗

是者右唐船水取ニ右船数三日差遣候得共、右八艘ヲ一日分ニ仕賃

此賃銀三拾目

銀如斯、

是者寫原御領口之津村通事、右御用ニ付參被居候処、御用相濟被罷

一小船壹艘

歸候節送船賃銀如斯、

此賃銀九匁三分

但、壹艘四人、船かこ共五人、一日壹

一銀五拾目

是者右唐船出帆ニ付、遠見御番人・町御役人・問屋・弁指見送り

是者右通事御歸之節、祝義として差遣申候、

として灘中江御出被成候節賃銀如斯、

一小船式艘

但、右同断

一御屋形船式艘

但、壹艘ニ付かこ六人、船舸子メ一日

此賃銀六拾目

二同廿五日ノ同廿九日迄、日数五日

是者崎津附遠見御番人并通事御歸之節、送船兩度差遣候賃銀如斯、

分、船舸子メ七拾人、一日一人賃銀

一勤番船壹艘 但、右同断

右同断

此賃銀百式拾目

此賃銀百三拾目式分

是者遠見御番人方唐船滞舟中并長崎江御引渡迄御用相勤申候賃銀如

是者右唐船滞舟中御出役様方昼夜御廻浦被遊候節相勤候賃銀日数五

斯、

但、六人乗

一飛船壹艘

斯、

但、六人乗

此賃銀六拾目

是者右唐船出帆ニ付御役所々長崎御屋鋪江御用状參候節、飛船差遣候賃銀如斯、

一銀八拾目

是者警固船二江村々相願用意仕候処、次郎平方々被相勤候ニ付、右用意仕候船差返し候処、意返銭として書面之通差遣申候ニ付、此分御加へ可被下候、

ノ壹貫七百拾三匁六分九厘

六拾文銀之積リ

此拾九文錢五貫四百拾壹匁六分五厘

二口合 八貫三百拾三匁三分五厘

右者去子十一月中唐船漂着御用相勤候船舸子人足諸色入用之品、猶亦牛深見張御番所御詰御普請役様御交代之節挽船入用、且亦遠見御番人方年中浦廻船賃書面之通御座候、以上、

文化二丑年六月

弁指

藤左衛門

臨時割請左之通

文化七年

午四月五日之夜、平藏網志岐下江網引ニ參候処、志岐村々差留メ候ニ付、早束網操上致ス所ヲ石つぶてを以テ雨あられのよふニ打掛ケ、けが人四人有之候、此段御役所江御届ケ申上候処、同夜深江堺大田江龍松網立候処、志岐村百姓数百人余も罷出、無異儀網引取候ニ付、無是非亦々御役所江御願ニ罷出候、願通被仰付難有奉畏候、尤町方之者志岐浜江稼ニ參候節者、町方之者ハ壹人たり共差加へ候儀者不被相成様

被仰付承知仕、其段網持中江も申聞ケ置候、以後石狩之儀有之候節者

何品ニ不寄網ニかゝり候ものハ取揚方ニ致、其上漁稼之儀差留メ方ニ致候段申聞候、其儀者網持中承知之返答致候上、扣へ置候、

午四月十七日

十内

六左衛門

龍松

徳太郎代

孫七

吉次代

平蔵

勇蔵代

長兵衛

御書付申上候事

当町漁場之儀、当春二月中志岐村下漁稼ニ罷出候処、同村々差留メ漁師共難渋仕候ニ付、往古々稼来候訳合、其節委細書付差上申候所、追々当町漁師共志岐村百姓一同御役所江御呼出之上、御口達書ヲ以双方御理合被仰聞候、是迄之通漁業仕候所被仰付候所、志岐村々不承知之段申出候由ニ而暫ク見合候よふ被仰聞、漁師共甚難渋仕、其砌茂段々御願申上候所、今以相分り不申候ニ付而者、其日暮シ之漁師共誠ニ飢餓ニ及候程之儀ニ御座候、殊ニ当節小網并こぎ網等網代場当町飛龍社下々志岐村下重毛之網代場ニ而御座候所、右場所網引立不相成様御座候而者漁師共日々稼茂出来不申、左候而者外ニ渡世イ無御座、其

日を過兼難洪仕候間、御憐愍之上急々ニ網引立ニ相成候様被仰付被下置度漁方之者共一統申出候、右小網こぎ網之儀者旬合も有之、當時節を過候而者旬外レニ相成り、殊ニ追々このしろ網引候時節ニも相成り候間、此節網引立候様被仰付被下置候而者、至而難洪ニ付此節以前之通急々引立ニ相成不申候様御座候ハ、嶋原表江罷越是非御歎申上度奉存候間、何卒当 御役所御添翰被仰付被下置候様御願申上吳候様私共方江日々願出申候、何卒御役所御憐愍ヲ以急埒仕候様幾重ニ茂御願申上候、漁師稼場之儀者当町百姓共志岐村百姓論合ニ相拘り候訳合者御座有間敷奉存候間、右論合ニ不拘漁場之儀者以前之通無差障漁師共相稼候様被仰付度奉願上候、以上、

未ノ六月

町役人中

并ニ

弁指

御役所

書附ヲ以堅メ置候事

一此節志岐村下一件ニ付願ヲ以嶋原表江被罷越候ニ付、末々いか様之難洪之儀出来候供、網方并仲買南向々下町迄漁師不残一統之儀相違無御座候、依之跡家内、若シ不行届之儀有之節者為世話人次兵衛・佐五郎・安之丞・次郎吉・由平・清之丞、右之人数罷出宜敷取計ひ可申候、為念請合証文差出置候、

文化八年

世話人中 (印)  
網方中 (印)

未ノ七月 日

惣所中 (印)

由左衛門殿

十内殿

由三郎殿

勇藏殿

六左衛門殿

以書付申上候事

富岡町浦方漁師共相稼候網代場之義、東者之ふ瀬、南者大ヶ瀬、北者古御城山ヶ三里半、西者五里半、往古今差配仕来漁業相稼候処、貝瀬論合ニ付不計志岐村下漁業為致候義相成不申段申之、既ニ去ル未年之以来右村下ニ漁稼ニ罷出候得者大勢罷出、網引損怪我人等有之手荒成義、右村之仕向候ニ付無抛是迄差扣罷有候得共、近年不漁打続漁師共一統甚難洪仕、当浦之義者三月之五月迄小鯛網引立、八月之十一月迄之間者八田網重ニ漁業仕候時節ニ御座候、然ル処今一両日大分小鯛相見候ニ付、折角志岐村下ニ漁稼ニ罷越候積リニ御座候得共、前書之通右村之手荒成義仕向候間、又々罷出御厄介奉掛候而者恐入候義ニ付、右様仕不申様被 仰付被下置度、往古今右網代場御運上として銀三百三拾匁宛、是迄御上納仕来申候、殊ニ三十五人舸子役等相動来候得者、右網代場之義者百性御田地同様之義与奉存、誠ニ漁師之義者外渡世等無御座、漁業而已ニ而其日ヲ罷過候得者、漁稼場手迫ク相成候而ハ甚歎ヶ數対御上様諸御用向行届兼候而者奉恐入候、尤右貝瀬論合ニ付何ぞ右村之違論等申掛差妨候義者有御座間敷与奉存候、然ル所別而近年不漁打続小鯛漁専与相稼、右余力ヲ以年中夫食之足ニ仕、当町飛龍社下志岐村下之義者重成ル網代場ニ候間、漁業一同も相止候而者及飢渴ニ候ニ付、右様仕向候義甚不承知ニ奉存候、何卒以御憐愍右村下ニ罷出候而茂相妨不申候様、乍恐宜敷被為仰付被下置度漁師共一統願出

申候間、此段書付ヲ以奉願上候、已上、

酉三月

弁指

由左衛門

奥書文言略之

富岡町庄屋

荒木恒太郎印

右町

町年寄

村川彦八郎印

同

高嶋伝左衛門印

同

岡部佐野左衛門印

富岡

御役所

内々ニ而差上候書付之写左之通

一富岡町浦方漁師共相稼候網代場之義者先達而表向願書差上候義ニ御座候得者可被為承知御座候由与奉存上候故、是迄之振合之義乍恐奉入御内覽ニ候、

一去ル巳年志岐村分申出候者同村下漁稼之義者決而不相成段理不尽之義申出、甚迷惑ニ及差浦方一統極々難渋之訳合ニ相成候事ニ御座候、前々分漁稼之義者不及申上ニ和布藻等ニ至迄、右村下取来候程之場所之義ニ御座候得者、漁稼之義不相成段申出候義者甚以浦方漁師共不承知ニ存罷有候、第一浦方漁師共之義者海中専之義稼方仕候事ニ御座候処、右村下漁稼之義者勿論和布藻等ニ至迄稼方不相成候様、

志岐村分相妨候而者近年打続不漁之末浦方漁師共一統及渴命ニ候分外無御座候、海上境之義者往古分御極メ被下置候通、東者二江村・坂瀬川村之境のふ瀬限、南者高浜沖大ヶ瀬限、西者御古城山分五里半、北者御同所分三里半限ニ稼場所ニ被下置候訳合ニ御座候得者、譬志岐村百性方いか様申出候とも、右御定被下置候漁師共稼場之内ニ御座候得者、志岐村下ニ漁業稼方ニ罷越候而も少シも不苦訳合之義ニ奉存候ニ付、去ル午年四月五日之夜、龍松網・平蔵網右村下江漁稼ニ罷越候処、右村百性共罷出龍松網之義者百性共方江引取、平蔵網江者石等投掛網子之内、怪我人等も数多有之候中ニも吉松弟妻吉与申網子之義者其節之怪我次第第二相重り、同五月中頃ニ相果申候程之義ニ御座候、尚又其後十内網之船志岐村三江川与申川内江かこい置候処、夜中ニ石等投込、船之地板ニ至迄打はがし、大双成損し方ニ相成候得共難仕候与申義ハ相分り不申候得共、定而志岐村分仕向義共ニ而ハ有之間敷哉ニ奉存候、志岐村下漁稼方之義ニ付而ハ御上様ニも段々奉掛御苦勞候時節ニ御座候ニ付、右様之義迄御届申上候而奉掛御厄介重々奉恐入候故、其僅ニ仕当所曲崎江引取かこい置候事ニ御座候、尚又去ル十月五日二十内網・龍松網このしる漁業ニ罷出、十内網之義者江子口与申所ニ稼方仕居候処、志岐村分大勢罷出網方并船路等ニ玉手ヲ掛、理不尽之儀仕向候得共、其節者此方分も多人數漁業ニ罷越居候儀ニ付、漸々凌方仕、十内網之義者引取申候、大田与申所ニ而龍松網稼方仕居候処、右十内網ニ妨候人数之上ニ尚又大勢差加り、右龍松網ニ押掛前後之訳合も不申、理不尽ニ網ニ手ヲ掛、右場所分村内迄遠方之処引取申候、右ニ付而ハ早速御届可申上筈之処、前段ニ茂奉申上候通、段々奉掛御苦勞候時節ニ御座候得者是又差扣罷有内々及熟談ニ網者漸々龍松方ニ受取方ニハ仕



候得共、右大勢二而引損し候事ニ御座候得者、其後右網相用候様ニ者無御座、甚難洪仕申候、其節も右様理不尽之仕向不申候得者、過分之漁事も可仕筈之処、右様仕向候義ニ付取損し残念至極ニ奉存候、勿論浦方御運上として銀三百三拾匁宛御上納仕、殊ニ三十五人之舸子役等相勤来候得共、年々為定式割十九文錢壹貫貳百七拾四匁七分宛郡中飛船方江相渡候義ニ御座候、尚又去ル午年之浦方江之割受、舸子壹人ニ付錢貳百七匁三分宛、舸子三拾五人分之錢辻七貫貳百五拾五匁五分差出、尚又未年之割合舸子壹人ニ付錢貳百九拾七匁三分宛、是又錢辻拾貫四百五匁五分差出方ニ相成申候、右様之出錢之義茂浦方稼場ニ相掛り漁業不仕候而ハ、外ニ渡世も無御座候得者、諸物成諸掛り物等差出方之義、余ニ取計方無之事ニ御座候、左様御座候へハ浦方稼場之義者百姓方之御田地同様之義与乍憚奉存候、尚又舸子役之義相極候義者万治年中ニ相極り、御運上銀之義者寛文二年ニ銀三百三拾匁宛御上納仕候様 御代官鈴木伊兵衛様御定ニ御座候処、翌巳年 戸田伊賀守様御代御上納仕来候天草郡舸子数貳百九十九人ニ御座候処、郡中諸物成諸掛り物割受之義者当郡御高之内九百六拾五石六斗八升貳合之割受ニ而郡方ニ差出来候、右之訳合ニ御座候得共、何ぞ百姓方ハ漁稼方之場所ニ付而ハ右迄相妨候訳合ハ決而有御座間敷奉存候、誠ニ漁師之義者外渡世等無御座、漁稼而已ニ而其日ヲ送り候得者、漁稼之場所手迫ク相成候而者、今日渡世方行届不申、漁師共一統及難洪二家内暮し方難義差留り一入歎敷奉存候、段々漁稼之義色々有之候内、近年不漁打続候ニ付而ハ小鯛漁専之稼ニ御座候得者、最早此間ハ小鯛漁稼方之旬合ニ差掛り、右小鯛網代場所之義者別而志岐村下重成ル網代場所之義ニ御座候処、右様志岐村ハ相妨同村下漁稼相止候而者、漁師共一統甚難洪仕候、前段ニ申

上候通、和布藻等取揚方共ニ仕候得者、上ミハ坂瀬川、下モハ都呂々村下迄前々ハ取来候場所之義ニ御座候処、近年其義も不相成候様成行候ニ付而ハ年々不漁之末、別而浦方困窮仕、甚難洪ニせまり候事ニ御座候、藻杯ニ仕候而ハ漁師共取揚候而も何ぞ外用ニ相用候義ニ而ハ無御座、百姓方ニ売払其代錢ヲ以漁師共家内夫食之足シニも仕候得者、やはり御田地之やしないニ相成候と者相違無御座候、前段申上候内、別而志岐村下漁業稼方之義一同も相止候而者極々難洪之訳合ニ御座候間、何卒御慈悲之上急々ニ網引立ニ相成候様重々奉願上候、愚昧之漁師共ニ御座候へ者一々口上ニ而難申上義ニ御座候ニ付、乍恐奉入御内覽候間、宜敷被為仰付被下候様浦方一統御願申上候、已上、

西四月

富岡町

浦方中

文化十四六月於 御役所書付ヲ以被 仰渡候御書付之写

申渡

一御年貢米之儀、前々之通壹俵四斗入、合米貳升を目当ニいたし、米怔相撰米拵并繩俵ニ至迄聊龜抹無之様極々入念仕立可申候、近来長崎表ニ而水揚納之節合米無数、其上米拵不宜破碎糲米等多、餅米之様相見江候米も有之、全米怔吟味不行届米拵等不宜故之儀ニ候、我等支配ニ相成候而者、別而可入念事ニ而龜抹有之候而者不相濟義ニ付克々入念合米等茂致夫々相納へく候、

一御年貢銀之儀、是迄ハ会所ニ而割合差出候上、役所ハ申取立方茂於会所庄屋立会懸屋懸改いたし候趣ニ有之、然処御年貢銀納高并納日限等触出通り不相納村方も有之哉ニ相聞不埒之至ニ候、以来者御

年貢銀納定日左之通、

初納 十一月九日・十日 兩日之内

二納 十二月九日・十日 兩日之内

三納 翌二月九日・十日 兩日之内

右之通納定日相極候、納高之義者於御役所ニ割合其時々前以触為知候間、右触出銀高并右兩日之内無間違急度可相納候、御年貢米銀之義者百性重之義ニ而等閑ニ可相心得筈無之、於御役所茂ゆるかせニ者難相成候条、万一右日限銀高共二一日ニ而も致延引候ハ、不納人ハ勿論村役人等へ急度可及糺明候ニ付、兼而此段相心得居聊も心得違仕間敷候、依之於 御役所直ニ取立候間、村々出精次第御役所江持參可相納候、

一 納入用之儀者勘弁も有之間、追而可及沙汰候、

一村方ニおひて御年貢米取立方之義者年々御年貢取立帳を拵、檢地帳・水帳・名寄帳等ニ突合、高懸り物・小物成・諸運上物有無相違相記シ、惣百性・町役人立会割賦いたし、小前分取立候時々印形取置、村役人分も請取書相渡置、重而御役所分割付・皆済目録等相渡候上、猶又惣百性・町役人立会決算いたし、過銀早速小前江割返し、不足早速小前分取立、右取立帳ニ過不足も相記し、印形取之小前扨人前之納高勘定書いたし、取立帳ニ割印之上、夫々不洩様可相渡候、一 郡中入用・村入用之儀者は迄多分相懸り候趣不宜敷事ニ候、先達而も追々相触候通相心得仕来ニ而も不宜儀者相改、惣百性・町役人立会致勘定時々小前印形取置、成丈入用不懸相様いたし御役所江差出候村入用之外、決而内割致間敷候、

一 何事ニよらず不宜事ニ百性大勢申合候ヲ徒党与唱へ、徒党して強而願事企候ヲ強訴と言、或は申合町方立退候ヲ逃散与申、前々分重キ

御法度ニ而たとへ可濟願ニ而も致徒党いたし候へ者、無御取上被行罪科候義ニ候間、聊も心得違仕間敷候、

一 可願立義者不申合老人ニ而茂相分り候義ニ有之、別而郡中相統方之義ニ付而ハ村役人とも始可捨置筋ニ無之、実々困窮無相違候得者御役所ニおゐてもたとひ郡中分不相願候とも取計可遣義ニ付、心得違之願等仕間敷候、

一 何事ニよらず宜敷風儀二者成兼、惡敷事二者うつり安きものニ而別而困窮之百性者貧苦ニ迫、身勝手之義ヲ外分申勤候得者、夫二なつミ自御法度筋も忘却いたし、終二者御仕置ニ相成不便之事共ニ候、たとひ身勝手宜事ニ而も出所不知もの、或は他所のもの分如何躰之義申勤候とも同意いたす間敷、都而何事も町役人江相尋、不分義者御役所江相伺万事村役人之差図を受、農業第一ニ出精いたし色々之申勤ニまよひ申間敷候、

一 百性・町人他支配ニ而御用有之候節者、支配役所江達ニ相成、御役所分其段申渡可差遣筋ニ候間、堂上方・諸寺院并支配違他所分罷越候様申参候とも決而不罷越、其段町役人早速町役人并御役所江申出可請差図候、町役人江茂無斷猥ニ罷越申間敷候、

一 百性・町人たとひ身代宜ものニ而も絹物・絹羽織等着用致候者不宜、万事右ニ准し奢ケ間敷義出来致候ものニ而前書申聞候通、不宜風義二者移り安きものニ有之、難義百性共茂右風俗を見習、弥以困窮之基ニ相成不宜事ニ候、身代宜敷ものニ而も身分を存、小前手本ニ相成候様質素儉約專ニいたし、奢ケ間敷義者勿論目立候義決而仕間敷候、

一 百姓分町役人相手取訴詔いたし、追々吟味ニ成候内、町役分申付候義不相分候歟、又者不承知之義有之者町役人江其時々幾度も可相尋





一持網 但式張

メ

一八田網

勇吉

一打網

一こぎ網

一地引

一このしろ網 但シ式張

一やず網

一あご網

一大魚網

一持網

メ

一八田網

大坂屋分かり株

一打網

栄吉

一こぎ網

一地引

一このしろ網

一やず網

一あご網

一大魚網

一持網

メ

一右同断

元藤左衛門

十内

大坂屋株

メ九か稼

一地引

龍松

一やず網

一あご網

一小網

一鱚網

一持網

メ

一地引

元勇蔵

一やず網

高嶋株

一あご網

一小網

一このしろ網

一持網

メ

一地引

元平次郎

一やず網

綿屋株

一あご網

一小網

一鱚網

一持網

メ

一手操網先年之形ニ致候様、当時手操網先年与違ひ格別大ク相成候ニ

付、網代場漁方之障りニ相成候ニ付、先年之通小形ニ可致事、

右者此節願出ニ相成町役人中評儀之上、先年之通相決候ニ付、向後村

方江入網罷越、尚又網株貸渡候儀決而相成不申、若入納并村方江網株  
貸し候得者、其株卷添漬方ニ相成候間心得違無之様、尚又無株ニ而網  
引候儀一切相成不申、休株ニ而茂有之候節者借り株仕引候様、且大網  
株者夫丈之稼、小網茂夫丈之稼致候様、右相背候者有之候節者即刻申  
出候様可致事、

右之通相決候上ハ決而乱リケ間敷儀致間敷候、依之極書仍而如件、

文政八年

酉六月

弁指

藤左衛門

納弁指中

御役人衆中